

葵製作所の金属廃材

東京造形大、アート 作品の材料に活用

総合板金加工業の葵製作所（東京都八王子市、社長・長谷川薫氏）は、地元の東京造形大学へ定期的に廃材を提



供している。自社の工場で加工後に不要となった鉄やアルミ、ステンレスなどがアート作品の材料となり、学びの場をサポート。今週25日には社員らが彫刻専攻領域の授業を見学し、新たな価値をも

つプロセスに立ち会った〓写真。

同社では地域貢献とSDGs（持続可能な開発目標）の実現

に向けて、昨年9月から一連の取り組みを進めている。学生たちに金属素材や加工方法への理解を深めてもらうとともに「互いに異なるアプローチに対して」「金属を扱う」という点は共通しており、社員たちが得るものは計り知れない」（長谷川社長）。今後も交流を重ねてアップサイクル（創造的再利用）の一翼を担っていきたい考えだ。

